

さようなら 関山博オーナー



追悼号

分社

代取会会報

《発行責任者》
 株式会社分社経営研究所
 代表取締役社長：酒井 邦恭
 《編集責任者》
 分社グループ代取会
 〒104 - 0061
 東京都中央区銀座6丁目12番1号
 TEL 03 - 3574 - 9542
 会長：佐々木弘人
 副会長：竹田 誠
 発行担当者：吉田寿子

去る十一月八日、分社グループ代表の関山博氏が急逝されました。（享年七十七歳）ご遺族の意向により十一月十一日に東京都港区の泉岳寺において密葬が執り行われました。

十二月八日に「お別れの会」が東京都港区の新高輪プリンスホテル国際館ハミールにおいて行われました。酒井オーナーをはじめとする分社グループ役員・従業員と、各方面より生前関山オーナーと親しくされていた方々の約五百名が参加し、関山オーナーの幅広い活動と交友関係を反映したものでした。

始めに参会者一同で黙祷を捧げ、お別れの会実行委員長佐々木弘人氏（代取会会長）から追悼の辞が述べられ、引き続き、在りし日の関山オーナーの功績を酒井オーナーをはじめ五名の方々より、お別れの言葉がありました。

また哀悼のお言葉を電文にても多数頂戴し、参会者全員の献花により、関山オーナーとの最期のお別れを致しました。

酒井オーナーの弔辞



関山。あんたがいなくなつてから、一ヶ月経つた。いつたい、どこへ消えたんだ？俺には全然実感が沸かない。今でもその辺からフツと入つて来そうな気がする。七十年も一緒にやつて来たんだ。半分俺の体になつちやつて来んだ。七十年も二人で漫才やつて来たんだ。突然のコンビ解消はないよ。挨拶なしでいきなり消えるなんて、ひでえ奴だ。お前に初めて会つたのは、矢口西小学校の三年生、学校が終わると、学校の隣が君の家なのに、毎日俺の所に来て、遅くまで遊んだ。その頃から付き合いのいい男だった。

大人しかったが、苦勞人で、芯の強い男だった。戦後の焼け野原から、今日のグループに立ち上げたのは、お前と俺だ。俺が強引で、お前が穏和で。皆は、俺に言いくいことはお前に言つて、それから俺に伝わった。七十年も続いたのは、「我慢なら俺はいくらでもする」と、あんたが俺を許してくれたからだ。

塗装をしていて何度も命を落としそうなお前が。あんたはいつも、「危ない所は俺がやる」と代わってくれた。ほんとうにいるんなことがあったなあ。山も谷も、晴れも嵐も。ずっと一緒に歩いてきた。ほんとうに一緒だった。

昔、分社を始め、君が大昌電子の社長になつて別れて行くとき、「今までは俺がいつも何かあるとカバーして来たが、これから邦さんだけで大丈夫かな、心配だなあ。よっぽど気をつけてくれねえと駄目だぜ。おめえは酒飲み気持ちはわからねえからな。何かあったらすぐ来てやるから、早く言えよ。」そう言ってくれたことが、いつも頭に残っている。

俺が「会社の株式は個人が沢山持つといつか経営がおかしくなる元だ」と言つて、石の博物館を作る基金に寄附するといつと、君は「邦さんが考えて良いと思つたのなら俺も出す」と言つて、所有する株式の全部を出してくれた。俺達二人は、また元の裸に戻つてしまった。俺がお前の働いてきた財産を全部剥ぎ取つたようなものだ。

お前は今までの努力のすべてを出したのだ。
 こんな協力者はどこにもいない。
 これほど一緒にやってきたのに
 お前はどこか遠い所へ行ってしまうた。
 ひでえぞ、俺を独りぼっちにして・・・。
 七十年も一緒にやって来た奴を置いてきぼりにして・・・。
 俺はこんなに悲しく、寂しいことを今までに知らない。
 俺がどんなに寂しいか、分かっちゃいなんだろ。

でも、お前がまだそこにいると思ってるよ。
 仕方ない、しばらく一人でやる。
 だから、どうか今までのように、俺を助けてくれ。

俺の仕事が終わらせて、それから、そっちへ行く。
 我慢強いところで、待っていてくれ。
 誠に残念だが、仕方がない。
 必ずまた会おう。

それまで俺を見守ってくれ。
 俺は戦ってゆくことを誓う。
 さようなら、関山博。

ほんとうにいい男だった。
 君に出会えたことを心から感謝している。
 さようなら、関山博。

必ずまた会おう。
 さようなら。

七十年の相棒 酒井 邦恭



酒井家の庭先にて
 (昭和二十年代)



銀座事務所にて
 (平成十五年九月)



佐々木実行委員長
 感謝の言葉で纏られた平辞



日立化成工業株式会社
 執行役社長/長瀬幸次様
 故人の在りし日のお人柄が
 偲ばれる平辞

喪主ご挨拶



本日は父のお別れの会に際しまして、お忙しい中にもかかわらずこのように大勢の方々にご参列いただきまして誠にありがとうございます。
 また父も、このような大勢の方々の前で素晴らしいお別れのご挨拶をいただき、さぞかし照れながら喜んでおりました。

私は、父が若い頃様々な苦勞を味わい尽くしたというように聞いております。しかしそれ以降、非常に幸せな思いで過ごしてこれたのも、ここにいらっしやる皆様のご厚情の賜物と心より感謝いたしております。

人は肉体の消滅を以って、生死を言いますけれども今、私は全くそうとは思っておりません。多くの皆様から励ましのお言葉をいただき、そのお言葉をお借りして申し上げれば、父は自分の心、思い、考え、信ずることを人に話すことによつて、自分そのものを伝えていたんだなあと、このことを深く感じて次第でございます。

これから様々な場面で心に刻んだ父の言葉を思い出すことがあると思っております。父は心では泣いていても、怒っていても、悲しんでいても、中々表情に出さない人で、いつも感情を微笑みの中に隠し、包むように暖かく寛容で、周りの人にもそのような雰囲気を与えてくれる人でした。身近に居りました家族、一緒に仕事をされてきた多くの皆様の中に、父がしっかりと生きていたのだと感じております。

本日はこのように大勢の皆様にご参列いただきまして父もさぞかし心より皆様のご芳情に感謝していることと思っております。ここにいます母と共に改めて厚く御礼申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。どうも本日はありがとうございました。

喪主 関山 浩一

関山オーナーを偲んで

代取会の役員、理事の方々をはじめとし、生前、関山オーナーと親しくされていらした方々より、お別れの言葉をいただきましたので、紹介させていただきます。



代取会会長

佐々木弘人

(株式会社大昌電子)

当社初代社長の関山オーナーが、残念ながら帰らぬ人となってしまいました。

関山オーナーは誠に温厚、誠実な人柄でお客様と社員を大切にされる経営者でありました。

ひとたび業務に携わると、沈着にして且つ果敢な行動力の持ち主であり、笑顔で接する姿勢は、社員に信頼が厚く人望を一身に集めておられました。

同時にお客様からも「せいさん、せいさん」と慕われ、グループの業容拡大に大きく貢献していただきました。

関山オーナーは常に「世界に通じる製品を作る」「顧客第一主義」の考えが経営の基本であり、口癖でもありました。

約束したこと、決めたことは必ず実行する、確認するという指導者としての責任感の強さがあり、分社グループを引率し、各社発展を暖かく見守り支援してこられました。

また、会うたびに「身体に気をつけてよ」「頼むぞ」と誰区別することなく心配りを忘れない優しい方でもありました。

不幸にも突然襲った病魔により急逝されましたことは分社グループにとりましても多大な損失であり、共に経営陣の一人として残念の極りでありました。

ご逝去される直前に、次期中期計画の相談でお会いした時が、最期の別れとなりました。

当日の朝、午後の予定を朝十時に変更され、その時に初めて「検査に行つて来るので、帰ってくるまで待つてくれ」といつもの元気なやる気いっぴいの姿でした。

残念です。今でも関山オーナーが「おー、元気が！」とあの笑顔で声を掛けてくれるような気が致します。

私も、後に残された者の使命は、関山オーナーとの生前の約束である「次期中期計画を達成させること」「目標一千億円達成に挑戦すること」であります。

関山、酒井オーナーの経営方針である「分社して人を生かす」「社会に貢献する企業グループに発展する」ことであります。

関山オーナーの生前を範と仰ぎ、各社幹部・社員が一丸となり、社業に励み、より優れた製品・サービスを送る決意と次世代に引き継いで行くことを約束致します。

どうか天国よりグループの成長、発展を見守って下さい。



代取会副会長

竹田 誠

(インテグラン株式会社)

「おーい、悪いなあ、頼むよ。」

そんな関山オーナーの声が、今でも聞こえてくるようです。

悪いのはこちらの方でご恩を返せぬままのお別れになつてしまいました。

関山オーナーは、まるで父親に叱られた子が飛び込む母親の懐のような温もりがあり、また勇気づけられ、励まされ、元気を貰つて「また頑張るか！」という気持ちにさせていただきました。

酒井オーナーと共に、分社グループを引っ張つて、分社の精神、理念、社員への思いやり、顧客への心配り、気遣い等々、数多くのことをお教えいただきました。

その教えを次世代の人に引き継ぐ役割を担つて参ります。

ありがとうございます。

ご冥福をお祈り致します。



理事 酒井陽太

(大陽工業株式会社)

分社グループは酒井・関山によつて創業され発展してきました。

グループは中小企業の集まりですが、一社一社が他に見られない特色を持った企業に成るべく高志と打たれ強さを持つて成長してきました。

創業と発展の過程に於いて、関山オーナーの演じた役割は言葉に出来ないほど大きなものがありました。

また油絵、デッサン、ゴルフ、ダンス、俳句と多才であるばかりでなく、そこに居合わす人の気持ち巧みな会話で瞬時に和ませ、相手の人を心底気分良くさせ、その人の心の中に飛び込んでしまうのでした。

こんな心からの営業が出来るとは余人を以つて代えがたいと申し上げても誰も異論ないことと思えます。

今振り返りまして、ただただ感謝とご冥福を祈るばかりです。合掌



理事 菅実

(富士精密株式会社)

関山オーナーの急逝の報に触れたとき、耳を疑い悲しみに言葉もありませんでした。

分社グループを酒井オーナーと共にここまで大きく伸ばしてこられ、また後輩には高所からご指導をいただきました。

ゴルフにおいては、先生格として又良きライバルとして、ご一緒させていただきました。

本当に、根性も肉体も健康そのものであつた関山オーナーの突然の逝去により、私の胸に大きな穴があいてしまいました。

しかし、今までに、ご指導を受けたことを心にとめ、分社グループが未来に向かって発展するよう、私共一同、頑張つていきますので、どうか末永くお見守り下さいませ。

ご霊前に頭を垂れて在りし日の面影を偲びながら、慎んでお別れの言葉とさせていただきます。



志摩 忠
(大金電子工業株式会社)

それは衝撃だった。酒井オーナーからの電話「関山が死んだ」、「何っ!」と次の言葉が出ない。酒井オーナーの淡々とした口調だけに、底に隠された悲しみの深さが容易に推察できた。

知り合ってかれこれ四十年、その人柄の温かさはグループ全員周知であった。秘書の青木さんの泣き腫らした目を見れば、関山オーナーの頃頃の優しさが改めて感じられる。銀座事務所での酒井・関山両オーナーの遠慮のない丁々発止のやりとり。そこには二人だけの信頼の絆が、私共から見れば逆に微笑ましく感じられた。棺の中の関山オーナー、安らかな寝顔だけが唯一つの救いだっただけだ。

銀杏の葉舞うがごとくに
優しさを人に残して
かの人は逝く。
合掌。



理事 木村 澄夫
(株式会社大忠電子)

私は、関山オーナーが専務取締役の時、大陽工業株式会社に入社しました。入社して間もなく矢口工場で囲碁ブームが起きました。

関山オーナーは、ほんの少しかじっていたようですが、私は全く分かりませんでした。「澄もどうだ?」と言われ、何も考えずに石を置いていました。そんなある日、「今日、俺の家で囲碁大会をやるので来い」と言われ、「こんな俺でも」と思いつつ、先輩達とご自宅へお伺いしました。それからも幾度となく、囲碁の楽しさを味わうと共に「井の中の蛙になるな」と大局的な見方を教えていただき、今も肝に銘じております。関山オーナー、誠に誠にありがとうございます。ご冥福をお祈り申し上げます。



理事 眼目 毅
(株式会社幸大ハイテック)

入社当初の私にとつて、関山オーナーは偉大すぎて遠い存在でしたが、先代社長の葬儀にあたり、各方面からの意見を調整し、まとめて頂いたことが印象に残っています。

その時の関山オーナーの気さくな人柄を肌で知り、逆に近い存在となりました。私が社長に就任した折りに最初のアドバイスは「各得意先の売り上げの1%を還元すると、また仕事に来るよ」と口癖のように言われ、すぐに実行し、実績が伴い感動したことが思い出されます。私が悩んでいるときなどは、持ち前の明るさで銀座の赤提灯によく誘われ、「明るさと活刀」を頂きました。これからの私の使命の一つは、色々教えて頂いたことを社員に伝承していくことだと思っております。ご冥福をお祈り致します。



理事 酒井 彌吉郎
(TNTホールディングス 株式会社)

「わかってるよ」それが最後の言葉となつてしまいました。入院前日、事務所に立ち寄り「仕事は溜まりますから早く帰って来て下さい」への返事でした。

自宅も隣りであることから、夜遅く庭に出てタバコを吸っておられ、声をかけられたのも数えきれないくらいで、帰宅時「ようう」と今も庭先におられるような気が致します。よくお聞きした話は、戦時中陸軍の少年航空兵募集の際に調布飛行場へ検査を受けた時、目が回ったこと、社主と一緒に製氷機底の塗装作業中に小鳥を籠に入れ、溶剤中毒から身を守る術を職人から習ったことなどでした。また、終戦後しばらくしたころに、矢口の大陽塗装工業の敷地で草取りをしていた妹さんのこと、関山オーナー一人のお通夜は実に悲しかったと話される覚えています。

今頃は妹さんと仲良く話されているのではと思っております。また、亡き酒井尚吉さんと楽しく一緒に暮らした日も思っております。事務所に十一時二十分まで待たせていたが帰られず、翌朝お訪ねしたとき横にならなれたら、初めて逝かれたのだと実感した。関山オーナーの思いでは尽きません。とにかく人情に厚い方でした。本当に有難うございました。



高橋 保吉
(旧東京電気株式会社副社長)

関山様、お別れとは誠に残念であり、寂しい限りです。戦後日本の工業発展に尽くされた業績は極めて大であります。仕事も卒業して年々人生最後の楽しい時を迎えんとするとき、誠に残念です。どうぞ安らかに眠り下さい。いつも笑顔まさに笑施の関山様さようなら。

会場では、関山オーナーが趣味で嗜まれていた書道、油絵、写真などの展示もありました。



関山博氏のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り申し上げます。